

身体障害者スポーツは、用具の開発や環境の整備、あるいは競技種目の多様化や人的サポートの拡大などによって急速に発展し、その驚異的なパフォーマンスが映像で流されることにより社会的認知も格段に高まっている。その影響もあって、生活の中で気軽にスポーツを楽しむ障害者の数も確実に増加している。当然ながら、身体障害者の運動や動作を専門に診る理学療法士ゆえに貢献できることは多い。理学療法士の新たな活躍の場が広がることを期待し、各種障害者スポーツの競技内容、歴史と現状、理学療法の役割、さらには先達の思いと取り組みについて解説していただいた。

■身体障害者スポーツと理学療法の関わり（高橋 寛，他論文）

パラリンピック大会は、競技色を強めながら発展している。全国障害者スポーツ大会は、身体障害者に知的障害者と精神障害者を加え、スポーツへの動機づけも目的のひとつとして開催されている。これらのスポーツは、公平な競技運営のため機能障害・活動制限を基にクラス分けを導入している。理学療法士は、国際・国内大会の各競技のクラス分け委員、あるいは選手のトレーナーとして、身体障害者スポーツに必要な専門職として位置づけられてきている。

■種目別競技と理学療法

1. 車いすマラソンにおける理学療法士の関わり（大川裕行，他論文）

障害者スポーツの競技者である選手は、残存機能を最大限に活用し、創意工夫の下に新たな方法・技術を開発して自己の限界に挑んでいる。理学療法士は、障害者スポーツに参加することで日常の臨床業務に役立つ貴重な情報を取得することができる。さらに、障害のある競技者から人間の持つ可能性を実際に学ぶことができる。理学療法士は、積極的に障害者スポーツに参画して、多くを学び、見識を高める必要がある。

2. 義足装着者の陸上競技における理学療法の関わり（駒場佳世子論文）

義足装着者（以下、切断者）が「義足で走る」ことは一般にも知られている。走行の獲得により、日常生活の活動範囲の拡大やスポーツの参加など、QOLの向上を得ることができる。しかし、現在のリハビリテーションにおいては走行までのサポートを行うことは難しい。今回は下肢切断者の陸上サークルでの経験をもとに、切断者の陸上競技、大腿切断者への走行の指導方法、理学療法士の関わりについて紹介する。

3. 脳性麻痺者の陸上競技における理学療法の関わり（石塚和重論文）

筆者が脳性麻痺の治療に携わって27年間が経過し、脳性麻痺者（児）の陸上競技の指導に当たって25年間が過ぎた。2001年からは日本身体障害者陸上競技連盟のクラス分け委員として活動し、スポーツコーチとしても陸上競技を中心にして脳性麻痺者（児）に対してスポーツ指導をしている。本稿では、脳性麻痺者の陸上競技と種目、クラス分け、日々の体調管理、障害予防について説明し、脳性麻痺者の科学的トレーニングについて紹介する。

4. 車いすバスケットボールにおける理学療法の関わり（橘 香織，他論文）

車いすバスケットボールに関わる理学療法士は年々増加している。車いすバスケットボールではプレー中に発生する外傷の他にも褥瘡などの問題が生じることが多い。理学療法の関わりとしては、外傷・傷害に対するケアにとどまらず、トレーニングやコンディショニングなど、活動の幅を広げをみせている。近年、本競技で重要な役割を担うクラスファイヤーとして活躍する理学療法士も増加している。

5. 車いすテニスにおける理学療法の関わり（蛭江共生論文）

障害者のスポーツにおける車いすテニスについて、競技の概要と競技スポーツの側面から競技を取りまく現状と、トレーナー活動を通じてスポーツ障害の特性など自身の経験を交えながら紹介する。また、障害者のスポーツへの理学療法士の関わり方や、サポート体制の取り組みなどを述べた。

6. ボッチャ競技における理学療法の関わり（奥田邦晴論文）

障がい者のスポーツが盛んになるとともに、種目数の増加などにより、重度の障がい者が選手として参加できる機会が増えてきている。その代表的なスポーツにボッチャがある。ボッチャは、主に重度脳性麻痺者や同程度の重度の機能障害がある者を対象としたスポーツであり、皮革製のボールを投球して、ジャックボール（目標球）に近づく競技である。本稿では、ボッチャのクラス分

け，ルール，そして理学療法との関わりについて事例報告も交え，解説する。

7. 障害者スキーにおける理学療法の関わり（秋田 裕論文）

日常生活では体験できない雪上でのスキーは，障害者の健康増進や体力維持に加えて大きな心理的効果をもっている。本稿では障害者スキーと障害特性について述べるとともに，クラス分け，スキー指導，傷害予防などにおける理学療法の幅広い関わりについて，実践例を通して述べる。また障害者スキーに使用される用具についても紹介する。